
外 国 語

1 研究テーマ、内容等

(1) 研究テーマ

「聞くこと」と「書くこと」の2技能統合型のゴールタスクを通した「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価の充実

(2) 研究内容

外国語部門では、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通した指導と評価の在り方について、授業実践を通して、その有効性を研究した。

(3) 研究テーマ設定の背景

生徒が将来社会に出た際に、外国語を用いて情報を「聞いて書く」状況に直面することは非常に多いと考えられる。例えば、海外出張の報告書を作成する場合、外国語で聞いて書くことが求められる。本研究では、生徒の将来的なニーズを踏まえ、「聞くこと」と「書くこと」の2技能統合型のゴールタスクを通した「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価の充実を研究テーマとした。『高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説外国語編英語編』には「統合的な言語活動」が83回出現し、第1章総説では「英語コミュニケーションⅢ」について、「五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、五つの領域の総合的な指導を、生涯にわたる自律的な学習につながるよう発展的に行う科目」と記されている。このことから、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するためには、4技能を別々に分断して扱うのではなく、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通した指導と評価が重視されているといえる。そこで本研究では、この「統合的な言語活動」の理念を踏まえ、特に「受容」と「産出」に係る2技能統合型のゴールタスクを通した「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価の充実に焦点を当て、「英語コミュニケーションⅢ」における指導と評価の在り方について検討することとした。

(4) 研究の展開

複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通した指導と評価の在り方について、5名の委員それぞれが所属校で試行的な実践を行った。また、部門全体としては、「聞くこと」と「書くこと」の2技能統合型のゴールタスクを通した「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価の充実の実現に向けて研究を進め、神奈川県立多摩高等学校の「英語コミュニケーションⅢ」で公開研究授業を実施し、「聞くこと」と「書くこと」を結び付けた統合的な言語活動を通した単元の指導のデザイン、生成AIを活用した「書くこと」の指導、「聞くこと」と「書くこと」の2技能統合型のゴールタスクのデザイン、生徒に与えるべきフィードバック等について検討した。単元の指導の最後に、「聞くこと」と「書くこと」の2技能統合型のゴールタスクを実施し、事後に生徒へのアンケート調査を行い、結果を分析し考察した。

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：「英語コミュニケーションⅢ」

イ 単元名：Lesson 5 Diversity, Element English Communication Ⅲ(啓林館)

ウ 単元の目標：

- (ア) 多様性を尊重する社会について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて支援をほとんど活用しなくても、概要や詳細を聞いて捉えることができるようにする。
- (イ) 多様性を尊重する社会について、使用される語句や文、情報量などにおいて支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、構成を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。
- (ウ) 多様性を尊重する社会について、使用する語句や文などにおいて支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、自分の考えを論理性に注意して詳しく書いて伝えることができるようにする。

エ 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<p>[知識] 同意の度合いを表すときに使う語彙や表現を理解している。</p> <p>[技能] 多様性を尊重する社会について書かれた説明文を読み取る技能を身に付けている。</p>	<p>多様性を尊重する社会について書かれた説明文を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解したり、情報を事実と意見に整理したりしている。</p>	<p>多様性を尊重する社会について書かれた説明文を読んで、構成を把握したり、概要や詳細を理解したり、情報を事実と意見に整理したりしようとしている。</p>
聞くこと	<p>[知識] 対話や講演、説明を聞き取るために必要となる語彙や表現の意味や働きを理解している。</p> <p>[技能] 多様性を尊重する社会についての対話や講演、説明を聞き取る技能を身に付けている。</p>	<p>多様性を尊重する社会について、対話や講演、説明を聞いて、概要や詳細を捉えている。</p>	<p>多様性を尊重する社会について、対話や講演、説明を聞いて、概要や詳細を捉えようとしている。</p>
書くこと	<p>[知識] 情報や考え、気持ちを書くために必要となる語彙や表現、構文等の意味や働きを理解している。</p> <p>[技能] 多様性を尊重する社会について、理由や例を示しながら自分の考えをまとまりのある文章で詳しく書いて伝える技能を身に付けている。</p>	<p>多様性を尊重する社会について、理由や例を示しながら自分の考えをまとまりのある文章で詳しく書いて伝えている。</p>	<p>多様性を尊重する社会について、理由や例を示しながら自分の考えをまとまりのある文章で詳しく書いて伝えようとしている。</p>

オ 2技能統合型のゴールタスク

多様性を尊重する社会についての講義を聞き、与えられたテーマについて、自分の考えをまとまりのある文章で書く。英文は4パラグラフ、150～200 wordsでまとめる。

テーマ：Write about your experiences about diversity at Tama High School, and write what you thought about it.

カ ループリック

タスクの条件：講義のトピックから二つを選び、それぞれについて自分の経験と考えを書く。

	正確さ 【知識・技能】	内容 【思考・判断・表現】	構成 【思考・判断・表現】
a	語彙や表現の選択に優れ、理解しやすい英文を書いている。	条件を満たした上で、事実をはっきり示し、意見を明確に述べている。	複数の、それぞれまとまりのあるパラグラフで書いており、一貫性が構築されている。
b	理解に支障のない程度の英文を書いている。	条件を満たして書いて伝えている。	複数の、それぞれある程度まとまりのあるパラグラフで書いている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。
付帯事項	<p>「理解に支障をきたす誤り」</p> <ul style="list-style-type: none"> 文構造の誤り 語順に係る誤り 時制、相に係る誤り 語彙選択の誤り等により、意味伝達に支障があるもの 	<p>「事実をはっきり示す」</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み手がすぐに理解できるように、自身が経験した事実をわかりやすく表現している。 <p>「意見を明確に述べる」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身が思ったこと、考えたことをわかりやすく表現している。 	<p>「まとまりのあるパラグラフ」</p> <ul style="list-style-type: none"> パラグラフ内の全ての文が一つの話題について書かれている。 <p>「一貫性」</p> <ul style="list-style-type: none"> ディスコースマーカーを効果的に置き、読み方の案内をしている。 パラグラフ構成が分かりやすい。

キ 単元の指導と評価の計画

時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	<ul style="list-style-type: none"> ゴールタスクの内容、実施方法、評価基準などについて理解し、目標達成に向けて、どのように学習に取り組むかを考える。 【L】 オーラルイントロダクションを通してDiversityについて考える。 【プレW】 Diversityについての英文を読み、「Why is diversity important?」について、自分の意見を箇条書きした後、ペアでディスカッションを行う。 【L-W】 DiversityとInclusionに関する講義を聞き、概要や要点の理解を問う選択問題に解答する。続けて「Why is it important to have diversity at schools?」について、100 wordsの英文を書き、提出する。 教科書の本文を読むために必要な語彙、背景知識と文法を理解する。 				<ul style="list-style-type: none"> 単元を通してどのような力を高めていくのかを意識させる。 【L】 要点を整理して聞き取るためのメモの取り方に関するリスニング方略を指導する。 【W】 英文を回収し、生成A Iによる言語面の添削を行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> 【R】 教科書本文第1段落から第2段落を読んで、概要や要点を理解する。 様々な音読活動に取り組む。 演習を通じて構文を理解する。 【ポストL】 前時の講義のスクリプトを読み、効果的なメモの取り方を考える。 【ポストW】 前時に書いた英文への生成A Iによる添削を受け取り、振り返りを記述する。 【プレW】 「Do you think there is diversity at Tama High School?」についてペアでディスカッションを行う。 				<ul style="list-style-type: none"> 音読活動を通して、英語の音声情報を速やかに処理し母語への翻訳を介さずに意味理解を行う能力を育成する。 【W】 生成A Iによる添削の特性（語法・文法・表現に関する信頼性の高さと、内容・構成に関する精度の限界）を理解させ、また、生成A Iによる添削を吟味し振り返る過程を通じて書く力の育成につながることを理解させ、主体的に活用できるよう支援する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 【R】 教科書本文第3段落から第5段落を読んで、概要や要点を理解する。 様々な音読活動に取り組む。 演習を通じて構文を理解する。 【L-W】 Inclusive Educationに関する英文を聞き、概要や要点の理解を問う選択問題に解答する。「What are the benefits of inclusive education?」について100 wordsの英文を書き、提出する。 				<ul style="list-style-type: none"> 生成A Iを使ってリスニングの教材を作成した手順について説明し、生徒自身が主体的に生成A Iを活用できるよう指導する。 【L】 サインポスト表現に着目しながら要点を把握するリスニング方略を指導する。
4 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 【R】 教科書本文第6段落から第7段落を読んで、概要や要点を理解する。 様々な音読活動に取り組む。 演習を通じて構文を理解する。 【ポストL】 前時の英文のスクリプトを 				<ul style="list-style-type: none"> 【W】 ペアを変え、同じテーマでディスカッションを繰り返し、内容面の指導を行う。多角的にテーマを捉え、考えを深められるよう、途中で教員のSmall

一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導にかすことは毎時間行う。

	<p>読み、サインポスト表現に着目しながら要点を把握する練習をする。</p> <p>【ポストW】前時に書いた英文への生成AIによる添削を受け取り、リライトする。</p> <p>【プレW】前時と同じ「Do you think there is diversity at Tama High School?」についてペアでディスカッションを複数回行う。</p>				<p>Talkを入れ、新たな視点を得られるよう導く。</p>
5	<p>○語彙の小テスト</p> <p>○【R】教科書本文の内容を表にまとめる。</p> <p>○【L-W】2技能統合型のゴールタスク「多様性を尊重する社会についての講義を聞き、選択問題に答えなさい。また、次のテーマについて、自分の考えをまとまりのある文章で書きなさい。英文は4パラグラフ、150～200 wordsでまとめること。」</p> <p>テーマ: Write about your experiences about diversity at Tama High School, and write what you thought about it.</p>	○	○	○	<p>○(知)語彙の意味や働きについての理解を確認する。</p> <p>○(思)「聞くこと」について内容理解問題の正誤に基づいて評価する。</p> <p>○(思)「聞くこと」について、ループリックに基づいて評価する。</p> <p>○(知)(思)「書くこと」について、ループリックに基づいて評価する。</p> <p>○(態)「聞くこと」「書くこと」について、評価規準に基づいて評価する。</p>
後日	<p>○【R】ペーパーテスト</p> <p>多様性についての論説文を読んで、概要や要点、詳細の理解を問う多肢選択問題等に取り組む。(定期テスト)</p>	○	○		<p>○(知)教科書で学んだ表現の意味や使い方を理解しているかを評価する。</p> <p>○(思)英文を読んで概要や要点、詳細を整理して捉える力を評価する。</p>

ク 授業実践例(4時間目/5時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)	
1 導入	○前時の復習
2 展開	<p>○教科書の本文の内容理解と言語材料の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の本文第6段落と第7段落を読んで、概要や要点を理解する。 演習を通して構文を理解する。音読活動を通して、英語の音声情報を処理し、母語への翻訳を介さずに意味理解を行う能力を高める。 <p>○「聞くこと」の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> サインポスト表現に着目しながら要点を把握するリスニング方略を理解する。 <p>○「書くこと」の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に書いた英文への生成AIによる添削を受け取り、リライトする。 <p>○「話すこと」の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> スピーキングのUseful Expressionsを確認する。 ペアでディスカッションを行う。「Do you think there is diversity at Tama High School?」
3 まとめ	○本時の振り返りを行う。

研究実施校：神奈川県立多摩高等学校(全日制)
 実施日：令和7年10月8日(水)
 授業担当者：佐藤 裕介 教諭

(2) 「指導と評価の一体化」の実現に向けたポイント

ア 2技能統合型のゴールタスク

本単元のゴールタスクでは、生徒が多様性を尊重する社会に関する講義を聞き、その内容についてまとまりのある文章を書いた。単元の最後に目的や場面、状況を明確にしたゴールタスクを設定し、単元中2回の「聞いて書く」言語活動を実施、これらの統合的な言語活動を通して聞き方と書き方の指導を行い、ゴールから逆算して計画した単元の指導と評価を実施した。また、この計画は単元の最初に生徒と共有した。

2技能統合型のゴールタスクで、生徒は講義内容を聞いて正確に理解しなければ目標の英文を作成できない。生徒はこのゴールタスクを遂行するため、リスニング力向上への意識を高め、リスニングによって理解した情報をライティングで適切に表現する必要があるため、ライティング力向上への意識を高める。これらを意図してゴールタスクをデザインした。

イ 2技能統合型のゴールタスクの評価基準(ループリック)

「受容」と「産出」に関わる2技能統合型のゴールタスクについて、評価対象を発信技能に限定するか、両方を見取るかは、先行研究でも課題とされている。本研究では、タスクの条件と評価基準を工夫し、「聞くこと」と「書くこと」の2技能を評価対象に設定した。

タスクの条件は、「(聞いた)講義のトピックから二つを選び、それぞれについて自分の経験と考えを書く」とし、ループリックの観点「内容」では、「b評価」を「条件を満たして書いて伝えている」とし、記述した英文を基に生徒の聞く力を評価した。また、ループリックの観点「正確さ」と「構成」では、生徒の書く力を評価した。一方で、外国語部門の議論では、書く力の影響を排除して純粋に聞く力を測るべきという意見も挙がった。この意見を踏まえ、概要や要点の理解を問う選択式問題を2問加えることで、選択式の形式でも聞く力を測定する方法を採用した。

ウ 意味中心のコミュニケーションを促す言語活動のテーマ設定

複数の領域を結び付けた統合的な言語活動は、単なる複数技能の集合体ではない。その意義は、理解と表現が相互に結び付いた意味のあるコミュニケーションを促すことにある。本研究では、メッセージの内容に焦点を当て、意味中心のコミュニケーションを促すには、テーマ設定が重要であると考え、生徒の興味・関心を引き、自分の課題として考えられるテーマを検討し、「多摩高校における多様性」を言語活動のテーマとして設定した。授業では、「多様性」という抽象的なテーマについて、生徒が段階的かつ共同的に知識や理解を深められるよう、教科書に加え、教員の作成したプリントやスライドでの説明により情報を理解し、周りの生徒との意見交換などで情報を伝達する場を設定した。

エ リスニング方略の指導

普通の授業では、聞く前に背景知識などの内容スキーマを活性化させるトップダウン処理に関わるリスニング指導や、発音指導やディクテーションなどによるボトムアップ処理に関わるリスニング指導を行っている。本研究では、これらに加え、二つのリスニング方略の指導を実施した。一つ目は、メモの取り方の指導である。概要や要点を理解するためのキーワードを見つけること、そして流れていく情報を素早く記録する略語や記号の活用を指導した。2技能統合型のゴールタスクでは、メモを理解と表現を結び付ける架け橋として機能させることを目指した。二つ目は、概要や要点を把握するためにサインポスト表現に着目させる指導である。具体的には、First, Thank you for listeningなど、話し言葉の談話の構成や流れを示す表現を指導した。これらのリスニング方略を取り入れることで、生徒が音声情報を効率的に処理し、概要や要点を押さえられるよう支援した。

オ ライティング指導における生成AIの活用

本研究では、従来の一般的なライティングのフィードバックである「教員による添削」とは異なるアプローチとして、「生成AIによる添削」を採用し、言語面のフィードバックを行った。第1時、第3時、及びゴールタスクで生徒に英文を書かせ、提出された手書きの英文をPDF化して生成AIに文字起こしと添削をさせた。この方法は、山瀬陽介の「AI活用により英語学習者を自律的ユーザーに育てる」(『京都大学国際高等教育院紀要』第8号)を参考にしたものである。

生成AIには、言語面の誤りがある文章に対して、異なる正解の選択肢を二つ提案するよう指示し、生徒自身にどちらを使うか選択させる形で指導を行った。生徒には「自然で格好の良い表現を選び、書きやすさも考慮しよう」と伝え、生成AIによる二つの提案を比較検討させた後にリライトを行わせた。また、生成AIに日本語で生徒向けの励ましのコメントを書くよう指示し、生徒へのフィードバックに加えた。ただし、生成AIによる添削やコメントには不十分な部分も見られたため、教員が全ての添削結果とコメントを一枚ずつ点検し、必要に応じて修正を加えてから生徒に返却した。

(3) 結果の検証

ア 2技能統合型のゴールタスクの評価

10月中旬、生徒54名に対して、2技能統合型のゴールタスクを実施し、ルーブリックに基づき「内容」の観点でリスニング力、「正確さ」と「構成」の観点でライティング力の評価を行った。また、リスニングの選択式問題2問も併せて実施した。その正解人数(割合)を表1に、講義を聞いて書いた英文の、ルーブリックに基づいた各観点の評価の人数(割合)を表2に示す。

表1 リスニングの選択式問題の正解人数(割合)

	2問正解	1問正解	0問正解
人数(割合)	50人 (92.6%)	4人 (7.4%)	0人 (0.0%)

表2 ルーブリックに基づいた各評価の人数(割合)

	正確さ 【知識・技能】	内容 【思考・判断・表現】	構成 【思考・判断・表現】
a	40人 (74.1%)	49人 (90.7%)	48人 (88.9%)
b	13人 (24.1%)	5人 (9.3%)	5人 (9.3%)
c	1人 (1.9%)	0人 (0.0%)	1人 (1.9%)

イ 生徒アンケートの実施内容と結果

10月中旬、生徒47名に対して、アンケート(4件法及び自由記述式)を行った。その結果を図1～3に示す。

質問項目	質問	□ そう思う 0%	□ どちらかといえばそう思う 20%	□ どちらかといえばそう思わない 40%	□ そう思わない 60%	□ そう思わない 80%	□ そう思わない 100%
1	本単元では「聞くこと」と「書くこと」を結び付けた統合的な言語活動を行いました。これまでの授業よりもあなたの聞く能力の向上につながりましたか？	25.5%		59.6%		14.9%	0.0%
2	本単元では「聞くこと」と「書くこと」を結び付けた統合的な言語活動を行いました。これまでの授業よりもあなたの書く能力の向上につながりましたか？	29.8%		46.8%		23.4%	0.0%
3	「聞くこと」と「書くこと」を結び付けた統合的な言語活動を行うことは、4技能別々に学ぶよりもあなたの英語力向上につながると感じますか？	20.8%		59.6%		10.6%	0.0%

図1 アンケートの質問項目及び結果(質問項目1～3)

質問項目4	質問	□ そう思う 0%	□ どちらかといえばそう思う 20%	□ どちらかといえばそう思わない 40%	□ そう思わない 60%	□ そう思わない 80%	□ そう思わない 100%
4-1	ゴールタスクの内容の共有	23.4%		74.5%		2.1%	0.0%
4-2	単元の目標に準拠したゴールタスクの評価ルーブリックの提示	34.0%		59.6%		6.4%	0.0%
4-3	【リスニング】メモの取り方の指導	23.4%		55.3%		21.3%	0.0%
4-4	【リスニング】サインポスト【ディスコースマーカー】に着目する指導	27.7%		63.8%		8.5%	0.0%
4-5	【ライティング】生成AIによるフィードバック全般	38.3%		51.1%		10.6%	0.0%
4-6	【ライティング】生成AIによるフィードバックの中で、誤りのある文章に対して二つの異なる正解の選択肢を与えられたこと	44.7%		44.7%		10.6%	0.0%
4-7	【ライティング】生成AIによるフィードバックを踏まえ、自分で正しい文章を吟味、選択しながらリライトしたこと	42.6%		46.8%		8.5%	2.1%
4-8	【ライティング】生成AIによる励ましのコメント	25.5%		46.8%		10.6%	17.0%
4-9	教科書のReadingでDiversityについて理解を深めていったこと	34.0%		61.7%		4.3%	0.0%
4-10	教科書だけでなく、教員の作成したプリントやスライドでの説明や周りの生徒と意見交換でDiversityについて理解を深めていったこと	34.0%		62.0%		4.3%	0.0%

図2 アンケートの質問項目及び結果(質問項目4)

表3 アンケート(自由記述)の生徒の記述(一部抜粋、原文ママ、下線は筆者)

自由記述 Lesson 5の授業を通して思ったこと・感じたことを日本語で自由に書いてください。
○ 質問項目3で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の記述
<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングからライティングをすることによってリスニングの聞き方やメモの取り方などを改善できたので今後にかきたい。 ・リスニングからのライティングは始めて行ったけど、問題にしたがって聴くのではなく全文の内容を把握する必要があったので、いつもと違った聴き方ができて、幅広く聴く力がついた。 ・今までは聞いたことを適当にメモしてたから、後で見返してもあんまりよくわかんなかったけど、→とか=を使ったらとても整理されてよかったのでこれからの学習で役立てたい。 ・パフォーマンステストでは、リスニングした内容をもとにライティングをしたので、リスニングでの集中力が増し、ライティングではベースとなる内容が提示されるので書きやすかったです。 ・いつもライティングの時書く内容が思いつかなかったり、思いついても語彙的に書けなかつたりすることが多かったのですが、この授業ではダイバーシティについてテスト以前に色々学習話し合ったのでアイデアが思いつきやすいくつよりスラスラかけました。ライティングの時テーマについて前提知識を持ってたり考えたことがあるものだと書きやすさが段違いに感じたので色々知っておくといいなと思いました。また、<u>リスニングで聞いたので英語で表現する時にどう書いたらいいのかも分かりやすかったです。</u> ・普段のリスニングは聞いて終わりのことが多かったから勝手に必要などだけ聞いて話半分ぐらいの感じ理解度がそんなだったけど、<u>書くことを前提に聞く</u>と、より集中して聞けたし、<u>要旨を捉えながら聞くことで理解も深まった。</u>学校教育に多様性も導入することはこれからの未来においても必要なことだと思うし、楽しそうだと感じました。
○ 質問項目3で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた生徒の記述
<ul style="list-style-type: none"> ・いつも別々にやってるからいつもと違ってむずいなどかんじた。DiverCityという概念が曖昧すぎて話のベクトルがあんまり定まらないと思った。ライティングはいきなり150から200は多いと思った。段階をつけるべきだと思う。リスニングは今まで授業で聞いたことのある内容だったので本当にリスニングの力がついたというのを感じることはできなかった。

ウ 公開研究授業後の協議で共有された参観者の意見

(7) 「聞くこと」と「書くこと」を結び付けた統合的な言語活動を通した単元の指導

- ・言語活動では言語面よりも内容面を重視するべきである。今回の授業ではDiversityについて繰り返し考えさせていてとてもよかった。
- ・リスニング方略の指導では、ICT機器を用い、上手なメモの取り方をした生徒の例をクラス全体で共有すると良い。個別から全体、他者から学ぶといった教室で学ぶことの良さをいかしたい。
- ・ライティングでは生徒に生成AIのプロンプトを提示し、生徒自身に生成AIを使わせてはどうか。そしてリライトしたものを生徒に提出させれば、教員は言語面ではなく内容面に関してコメントを書くことができる。

(4) 「聞くこと」と「書くこと」の2技能統合型のゴールタスクのデザイン

- ・聞いた内容の簡単な要約、あるいは聞いた内容と比較して自分の考えを書かせるなどのタスクにすることで、聞く力を測ることができるのではないか。そのようなタスク設計により、実際のコミュニケーションに近い場面や状況を作ることができる。
- ・ライティングの前にリスニングの選択問題を挟む必要はないと思う。

エ 考察

(7) 2技能統合型のゴールタスクによる評価

本研究では、一つのタスクを通して、一つのループリックでリスニング力とライティング力の評価を行った(表2)。ライティングの評価項目「正確さ」では74.1%の生徒がa評価となり、語彙や表現の選択に優れ、理解しやすい英文を書いていた。同じくライティングの評価項目「構成」では88.9%の生徒がa評価となり、複数の、それぞれまとまりのあるパラグラフで書いており、一貫性が構築されていた。また、リスニングの評価項目「内容」では100.0%がb評価以上、また、90.7%の生徒がa評価で、これらの生徒は、講義を聞き、その講義のトピックから二つを選び、それぞれについて自分の経験と考えを書くという条件を満たした上で、事実をはっきり示し、意見を明確に述べていた。また、リスニングの選択問題については92.6%の生徒が2問とも正解した(表1)。

公開研究授業後の協議で、リスニング力を測るために、「聞いた内容の簡単な要約、あるいは聞いた内容と比較して自分の考えを書かせるなどのタスクにする」、「ライティングの前にリスニングの選択

問題を挟む必要はない」という意見があった。本研究では、講義音声のリスニング後、150～200 words の英文を書かせる前に2問の選択問題を実施した。テストタスクの設計について、事前に推進委員で協議し、テスト形式のバリエーションを確保する観点から、記述だけでなくリスニングの選択問題を入れるべきと判断した。しかし、授業実践者の体感としては、選択問題を挟むことで「言語の現実場面での使用」からやや離れる印象があった。また、生徒がリスニングの選択式のテスト形式に慣れてしまうと、リスニング力の伸長でなく、解き方のコツを身に付けようと努力してしまう恐れがあるとも感じた。聞いて理解した内容について、要約をさせるなど明示的に記述させることも一つの方法であり、タスク設計について検討を続ける必要がある。また、リスニングの選択問題を省き、「聞くこと」と「書くこと」をライティングの成果物のみで評価する場合は、リスニング内容が難しすぎると生徒の意欲が低下する恐れがあるため、難易度を適切に設定する配慮が求められる。

(イ) 「聞くこと」と「書くこと」の2技能統合型のゴールタスクを設定した授業デザイン

アンケートの質問項目1～3の回答結果(図1)から、「聞くこと」と「書くこと」を結び付けた統合的な言語活動を通して、従来の授業より聞く能力の向上につながったと考える生徒が85.1%、書く能力の向上につながったと考える生徒が76.6%いることがわかった。さらに、89.4%の生徒が「聞くこと」と「書くこと」を結び付けた統合的な言語活動は、自身の英語力向上により効果的であると回答している。このことから、学習指導要領に記されている「複数の領域を結び付けた統合的な言語活動」の意義が十分に実証されたと言える。

もちろん、普段の授業の中でも、教科書を読んだ後にディスカッションを行ったり、教員の話聞いた後に教科書を読んだりするなど、自然に複数の領域を結び付けた活動を無意識的に取り入れている場面は多いと考えられる。しかし、生徒と教員がこれを意識的に行うことで、さらなる効果を発揮すると考えられる。今後は、単元に応じて、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を意図的に配置し、年間指導計画に体系的に組み込んでいくことが必要であると考えられる。

また、質問項目4-1、4-2の回答(表2)では、「ゴールタスクの内容の共有」と「単元の目標に準拠したゴールタスクの評価ルーブリックの提示」が「役立った」と回答した生徒がそれぞれ97.9%、93.6%と非常に高い数値を示していた。この結果から、単元の目標とゴールタスクを事前に明確に提示することで、生徒が学習の到達点を把握し、自身の学習の進め方や方向性を意識して、見通しをもって学習に取り組むことができていたことが示唆される。

(ウ) リスニング方略の指導

質問項目4-3、4-4の結果(図2)より、ゴールタスクで良いパフォーマンスを発揮するために「メモの取り方の指導」が役立ったと答えた生徒は78.7%、「サインポスト[ディスコースマーカー]に着目する指導」が役立ったと答えた生徒は91.5%という高い割合を示した。このことから、これらの指導がリスニング力向上に効果的であることが確認された。明示的にリスニング方略の指導を行い、それを実際の活動で使用させることで学習者が自身のリスニング力の高まりを実感したといえる。

(エ) ライティングの指導における生成AIの活用

質問項目4-5、4-6、4-7の結果(図2)より、ゴールタスクで良いパフォーマンスを発揮するために「生成AIによるフィードバック全般」が役立ったと答えた生徒は89.4%、「誤りのある文章に対してAIが2つの正解選択肢を提案したこと」が役立ったと答えた生徒は89.4%、「正しい文章を生徒自身が吟味・選択しながらリライトしたこと」が役立ったと答えた生徒は89.4%であった。この結果から、生成AIによるフィードバック、生成AIに複数の改善案を作成させること、また「自然で格好の良い表現を選び、書きやすさも考慮」してリライトを行う活動は、高い効果を発揮したと考えられる。しかし、選択に迷う生徒への支援は引き続き必要である。

一方、質問項目4-8では、「生成AIによる励ましのコメント」が「あまり役に立たなかった」と回答した生徒が17.0%と、他の項目に比べて高い数値を示した。このことから、生成AIは言語面のフィードバックでは効果を発揮するものの、情意面での効果はやや劣ることが示唆された。情意面については、教員が温かいコメントを付加するなど、生身の人間にしかできない心のやり取りを行うべきであると考えられる。

(オ) 内容中心のコミュニケーション

本研究では、内容面を重視する重要性に着目し、「多摩高校に多様性はあるか?」というテーマについて考えさせる様々なタスクをベースに授業を設計した。授業ではこのテーマで英文を読んだり、教員の説明を聞いたり、生徒同士で複数回のディスカッションに取り組んだり、言語形式よりもメッセージ

の内容に焦点を当てながら情報を理解し、表現するよう指導した。

質問項目 4-9、4-10 では、ゴールタスクで良いパフォーマンスを発揮するために「教科書の Reading で Diversity について理解を深めていったこと」、及び「教科書だけでなく、教員の作成したプリントやスライドでの説明や、周りの生徒との意見交換で Diversity について理解を深めていったこと」が役立ったかの問いに「(どちらかといえば)そう思う」と回答した割合は共に 95.7% と高い数値を示した。機械的に技能統合型の授業を行うのではなく、意味のあるコミュニケーションを通じて生徒の主体的な学びを促す重要性が確認された。

(カ) リスニングの動機づけとライティングの足場かけ

2 技能統合型のゴールタスクについて、生徒のアンケートの自由記述には「書くことを前提に聞くと、より集中して聞けたし、要旨を捉えながら聞くことで理解も深まった」との意見があり、同様の記述が複数見られた。このことから、リスニング後に英文を書くタスクがあることが、ポストリスニング活動として機能し、リスニングへの動機づけを高めたと考えられる。また、一般的な四択式リスニング問題と異なり、ポストリスニング活動を意識し、目的を持ちながらリスニング方略を活用することで、情報の理解が深まったことも示唆される。

一方で、「リスニングで聞いたので英語で表現する時にどう書いたらいいのかも分かりやすかった」という自由記述があり、同様の意見が複数見られた。このことから、リスニングがライティングの足場かけ(scaffolding)として機能していたことが考えられる。本研究で実践した「聞くこと」と「書くこと」の 2 技能統合型ゴールタスクでは、講義を聞くことが書く内容のプランニングを助け、生徒の持つ内容面のリソースを活性化する役割を果たした可能性があり、技能別指導では得られにくい好影響をリスニングとライティング双方にもたらしていたことがわかった。ただし、リスニングの内容や言語材料を過度に参照しすぎると、ライティングの内容や表現が限定される懸念があるため、この点には留意する必要がある。

3 複数の領域を結び付けた統合的な言語活動に関するその他の実践報告

(1) 神奈川県立麻溝台高等学校(濱田 美緒 教諭)

対象は 9 クラス 359 名(男子 167 名・女子 192 名)の一年生である。授業課題に積極的に取り組む生徒が多い。中学校レベルの基礎的な知識・技能が十分に身に付いていない生徒や英語学習への学習自体に苦手意識を持つ生徒も見られる。

「聞くこと」と「書くこと」の 2 技能統合型のゴールタスクを設定し、単元を通して「聞くこと」では AREA の談話構造、精聴の仕方、メモの取り方について、「書くこと」ではパラグラフ構造について指導した。英作文指導では、2 行から徐々に行数を増やし、最終的に一段落 5 行程度を約 5 分で書き上げる練習を継続して行わせた。これにより、語彙や構成について支援を与えた場合、各クラスの 7 割ほどの生徒が目標を達成できるようになった。

「聞くこと」と「書くこと」の 2 技能統合型のゴールタスクは次の内容で 2 回実施した。

活動 1 : あなたは留学生として海外の語学学校で学んでいます。ALT による 150~200 語の校外活動の説明(2 回目は旅行プランの説明)を聞き、必要な情報をメモします。

活動 2 : JTE (日本人英語教員)による内容に関する質問 4 問を聞き、それぞれの回答を書きます。

活動 3 : ALT の行った説明の内容に関連したトピックについて、自分の意見を 5 分間でまとめるパラグラフライティングを行います。

本実践では、「聞くこと」と「書くこと」の評価は統合しなかった。その理由は、教員の準備不足や学年単位での共通実施の制約があったためである。今後、技能統合型のゴールタスクを実施する際は、十分な準備を行い、授業担当者全員が納得して評価ができる環境を整えることが課題となる。

一方、学年単位で 2 技能統合型のゴールタスクに取り組んだ点では、教員・生徒双方に意義があった。育成したい生徒像を具体的に設定し、各活動の意義を意識しながら指導することで説得力が増し、生徒のやる気を引き出す効果もあった。また、教員同士の情報交換により、互いの指導技術の向上につながった。生徒はこの実践を通じて、「聞くこと」「書くこと」への自信を高め、今後の受験や外部試験への手立てとしても役立てることができた。

(2) 神奈川県立大和高等学校(齋藤 裕志 教諭)

「複数の領域を結び付けた統合的な言語活動」を考える際、真っ先に思い浮かぶのがディベートである。本校では、ここ数年にわたり、2年次に校内ディベート大会を実施するなど、ディベート指導に積極的に取り組んできた。しかし、個々の生徒をどのように評価するかという点は、大きな課題であった。

本校生徒のディベート活動における課題の一つである、他者の主張への「反論」に焦点を当て、「相手の主張を聞いて理解し、自分の意見を述べる」という二つの領域を結び付けた統合的な言語活動を通したコミュニケーション力の育成を目指した。

評価については、次の内容で教師との1対1形式のインタビューテストを実施した。

内容1：日常的な話題や社会的な話題についての意見文を聞き、その要点を日本語で説明する。(聞くこと)

内容2：日常的な話題や社会的な話題についての意見文を聞き、その要点に対して反論し、適切な理由や根拠とともに意見を述べる。(話すこと [やり取り])

各技能の評価において、他技能のスキルが対象技能の評価に影響を及ぼす可能性に留意する必要がある点は、今回の取組で得られた新たな良い気付きであった。評価の妥当性については、事前に十分な検討が必要である。生徒が総合的な英語力を伸ばしていくためにも、適切なテストと評価の実施について、今後も改善を進めていきたい。

(3) 横須賀市立横須賀総合高等学校(岩久 玲子 総括教諭)

今年度の英語コミュニケーションIでは、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成を目指し、単元ごとに重点スキルを設定した(表4)。「読むこと」や「聞くこと」で得た情報を基に、「話すこと [発表]」や「話すこと [やり取り]」、「書くこと」へつなげる言語活動を意識的に取り入れ、効果的な資質・能力の育成を図った。

表4 単元ごとの重点スキル

単元のテーマ	重点スキル	ゴールタスク
○友情	読む×自分の意見を話す(やり取り)	Reading and Interview
○万博	聞く×自分の意見を書く	Listening and Essay Writing
伝統文化	聞く×伝統文化を紹介する(発表)	Presentation
仕掛け学	読む×ソーシャルデザインの紹介記事を書く	Article Writing
○平和	読む×自分の意見を話す(やり取り)	Reading and Interview
科学	聞く×動物の秘密についての紹介記事を書く	Article Writing
観光	読む×オーバーツーリズムの対策を話す(発表)	Presentation
○情報社会	聞く×情報リテラシーについて話す(やり取り)	Listening and Discussion

全ての単元で複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を実施したが、2技能統合型のゴールタスクを設定したのは「○」を付した4つの単元であった。例えば、万博をテーマにした単元では、英文を聞き、それに対する意見を書く活動を行った。成果として、2技能統合型のゴールタスクを通じて、より実践的な技能を育成することができた。

評価には、技能ごとに異なるテストタスクやテストアイテムを使用した。評価の妥当性や信頼性については引き続き検証が必要であり、今後も評価の在り方を検討し続けることが求められる。

4 研究のまとめ

本研究を通じて、以下の3点の知見を得ることができた。

一つ目は複数の領域を結び付けた統合的な言語活動の意義である。「聞くこと」と「書くこと」の2技能統合型のゴールタスクは、リスニングとライティング双方に通常の指導では得られにくい好影響をもたらすことが明らかになった。

二点目は、学習評価における2技能統合型のゴールタスクの意義と課題である。学習評価において、リスニングとライティングを一つのルーブリックで評価することの可能性が検討できた。一方、多肢選択問題を

組み込むことについては、「現実の言語使用場面」と「概要・要点を聞き取るテストとしてのバリエーションの確保」の両観点から、今後も検討する必要がある。

三点目は、生成AIによる言語面のフィードバックの有用性である。言語面でのフィードバックには生成AIが有効であることが分かった。一方で、生身の人間教師による情意面でのサポートが重要であることも示唆された。AI時代における英語教育では、教師が情意面のサポートに重きを置き、教師ならではの心の交流を行うことが必要と考えられる。

本研究の取組が、英語教育に携わる教師の授業づくりや指導の一助となり、より良い英語教育の実現に寄与することを期待する。

引用文献

文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説外国語編 英語編』

参考文献

文部科学省 2018 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説外国語編 英語編』

大修館書店 2024 『英語教育2024年6月増刊号 実践事例大集合! 英語教師のための生成AI入門ガイド』

酒井英樹・佐藤大樹・木下愛里・菊原健吾 2019 「中学校英語科における技能統合型の言語活動の指導—読んだことに基づいて話すこと[やり取り]—」 『Annual Review of English Language Education in Japan, 30.』 pp. 303-318

津久井貴之 2023 「高等学校『英語コミュニケーションI』の教科書の比較分析—単元構成及び領域統合型言語活動に焦点を当てて—」 『群馬大学共同教育学部紀要 人文・社会科学編 第72巻』 pp. 139-162

廣森友人 2023 『改訂版 英語学習のメカニズム 第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』 大修館書店

松尾真太郎 2025 「EFL環境下の中等英語教育における統合型言語活動の指導法に関する研究レビュー—高校英語授業における課題と可能性—」 『東京学芸大学大学院学校教育学研究論集52号』

柳瀬陽介 2025 「<実践報告> AI活用により英語学習者を自律的ユーザーに育てる—京都大学の学術英語ライティング授業についての省察的報告—」 『京都大学国際高等教育院紀要第8巻』

Eli Hinkel 2006 「Current Perspectives on Teaching the Four Skills」 『TESOL Quarterly, Vol. 40(1)』 pp. 109-131

Eli Hinkel 2010 「Integrating the Four Skills: Current and Historical Perspectives」 『The Oxford Handbook of Applied Linguistics (2nd edition)』 Oxford University Press pp. 110-124